

池田満寿夫

1934(昭和9)年2月、旧満州奉天市(現中国遼寧省瀋陽市)に生まれる。戦後長野に引き揚げ、その後、画家を目指して上京。色彩銅版画を始めてからは、1957年東京国際版画ビエンナーレ展で入選。1960年の同展では文部大臣賞を受賞する。1965年ニューヨーク近代美術館で日本人初の個展を開催。1966年には第33回ヴェネツィア・ビエンナーレ展版画部門で国際大賞を受賞、版画家として最高の評価を得る。1977年小説「エーゲ海に捧ぐ」で芥川賞を受賞したほか、映画監督、舞台演出、評論そして陶芸など芸術のあらゆる分野でその才能を発揮した。1997(平成9)年3月、急性心不全のため63歳で逝去。



佐藤陽子

1949(昭和24)年10月、福島市に生まれる。来日中のレオニード・コーガンの公開レッスンでその才能を認められ、9歳にしてソビエト連邦文化省の招きでモスクワ国立音楽院附属学校に入学。12歳、モスクワ大ホールにてキリル・コンドラシン指揮、モスクワ国立オーケストラとの共演デビューを果たす。チャイコフスキー国際コンクール第3位、ロン＝ティボー国際コンクール第3位、パガニーニ国際コンクール第2位などヴァイオリンの主要な国際コンクールで優秀な成績を収めたほか、マリア・カラスに声楽の素質を認められ、ルーマニアのブカレスト国立歌劇場で「蝶々夫人」でデビューした。現在は演奏活動のほかエッセイストとしても活躍中。



版画に始まり陶芸、水彩、小説、映画などマルチアーティストの名をほしいままにした芸術家 池田満寿夫。幼い頃からその才能を認められ、世界を舞台に活躍したヴァイオリニスト 佐藤陽子。天才と呼ばれた二人がともに暮らし、それぞれの芸術活動の拠点としたこの家で、池田満寿夫の芸術作品を、佐藤陽子の演奏活動を、そして二人の華やかなれど気取らない日々の暮らしの一端をご覧ください。



1982(昭和57)年12月から1997(平成9)年3月に池田満寿夫氏が亡くなるまで、住まいとして、またアトリエとしてお二人が過ごしたこの家は、2000(平成12)年12月、佐藤陽子さんから熱海市に寄贈されました。描きかけのデッサンや時が止まったままの絵筆など、数々の芸術作品を生み出したアトリエも往時の姿を再現しています。また池田満寿夫氏の愛用品やコレクションなどもご覧いただけます。



【所在地】 〒413-0003 熱海市海光町10-24
【TEL/FAX】 0557-81-3258
【休館日】 火曜日(年末年始はお問い合わせください)
【開館時間】 9:00~16:30(入館締切は16:00)
【入館料】 300円
【交通】 熱海駅から徒歩約15分
路線バス 伊豆山神社方面行きまたはMOA美術館行
約5分「桃山町」バス下車 徒歩1分
◆駐車場はありません 公共交通機関をご利用ください
◆熱海市HP http://www.city.atami.shizuoka.jp/page.php?p_id=636
◆メール bunkashisetsu@city.atami.shizuoka.jp